

|  |   |
|--|---|
| <b>1. 研究開発課題名</b>  |   |
| 「DAINOプロジェクトによる農業と地域産業の創造<br>-実践的技術・技能・経営力を身に付けた地域創生を担う人材育成プログラムの研究-   |   |
| <b>2. 研究の概要</b>  |   |
| 現在、農業を支える農村では、高齢化・人口減少の進行に伴い、地域の特性に応じた新たな将来像を描き、コミュニティの維持・活性化に努めていくことが急務となっている。農林漁業者等が農林水産物の加工・直売等に取り組む6次産業化も求められており、新たな時代の持続可能な農林漁業を支える人材及び6次産業化を担う人材等の育成が喫緊の課題である。農業は生き物を対象とする生命産業であるとともに、生育環境条件や気象条件などの不確定要素が多く、その生産量の変化も激しい。近年、農業のビッグデータを取り扱う業者が出てきたが、農作業はマニュアル化が難しく、安定した農業経営を行うためには長年の経験や勘に頼る場面が多かった。そのため、人口減少社会に向き合い、ふるさと秋田に定住し、地域に貢献し、地域の再生、活性化に取り組む人材を育成するプログラムが必要である。 |   |
| <b>3. 平成30年度実施規模</b>   |   |
| 全校生徒を対象に実施した。  |   |
| <b>4. 研究内容</b>   |   |
| ○研究計画  |   |
| 第1年次   | <b>【アグリビジネス学習】</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリマーケティングハウス活用のための先進校視察（1地域、1校）</li> <li>・野菜栽培を通じた外国人との交流</li> <li>・地域資源を利用した家畜への応用</li> </ul> <b>【イノベーション学習】</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・「田沢湖」プロジェクト活動（京都大学・立命館大学）</li> <li>・クニマス遺伝子保護プロジェクト（信州大学）</li> <li>・スペースアグリプロジェクト（つくば市）</li> <li>・次世代施設園芸視察研修（GRA、ワンダーファーム）</li> <li>・プロフェッショナルの活用（産地化、機能性野菜、伝統野菜）</li> </ul> <b>【高スキルアップ学習】</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・大仙市農業研修生との相互交流（3回）</li> <li>・農業・農村に係るファシリテーション研修（教員対象）</li> <li>・「食の6次産業化プロデューサー」</li> <li>・農業経営セミナー（女性農業経営者2名）</li> <li>・教員研修（草花、植物工場（2カ所））</li> </ul> <b>【組織的マネジメント学習】</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・長期インターンシップ（北海道、青森県）</li> <li>・学校設定科目「農と食」開発研修</li> <li>・農業科学館との連携事業（農業科学館ナビゲーター取得と活動）<br/>農業科学科・生物工学科・生活科学科1年171名<br/>（検定結果 合格者171名）</li> </ul> |
| 第2年次   | <b>【アグリビジネス学習】</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物販売</li> <li>・先進地視察</li> <li>・野菜栽培を通じた外国人との交流</li> </ul> <b>【イノベーション学習】</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・「田沢湖」プロジェクト活動</li> <li>・クニマス遺伝子保護プロジェクト</li> <li>・スペースアグリプロジェクト</li> </ul> <b>【高スキルアップ学習】</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・大仙市農業研修生との相互交流（3回）</li> <li>・農業・農村に係るファシリテーション研修</li> <li>・「食の6次産業化プロデューサー」レベル1取得への取組</li> <li>・農業経営セミナー（女性農業経営者）</li> <li>・教員研修</li> </ul> <b>【組織的マネジメント学習】</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・長期インターンシップ（三重県、県内）</li> <li>・学校設定科目「農と食」実施</li> <li>・農業科学館との連携事業（農業科学館ナビゲーター取得と活動）<br/>農業科学科・食品科学科・園芸科学科・生活科学科1年174名<br/>（検定結果 合格者168名）</li> </ul>  |
| 第3年次   | <b>【アグリビジネス学習】</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・地域農産物を使った商品開発</li> <li>・アグリマーケティングハウス活用活動<br/>（農産物販売、農業の発信センター機能への取組）</li> <li>・外国人留学生等との交流（農家民宿やセミナーハウスを活用した体験活動や海外修学旅行生等との交流）</li> </ul>  |

- ・農業女子講演会
- 【イノベーション学習】
- ・「田沢湖」プロジェクト活動  
(クニマス遺伝子保護プロジェクト、田沢湖中性化プロジェクト)
- ・スペースアグリプロジェクト
- ・高度な技術実習 (次世代施設園芸研修、高等教育機関等との共同研究による高品質イチゴ栽培)
- 【高スキルアップ学習】
- ・大仙市農業研修生との相互交流 (3回)
- ・農業・農村に係るファシリテーション研修
- ・「食の6次産業化プロデューサー」
- ・農業経営セミナー (女性農業経営者)
- ・教員研修
- 【組織的マネジメント学習】
- ・長期インターンシップ (三重県、県内)
- ・農業経営塾高校生版 (3回から5回)
- ・学校設定科目「農と食」開発研修
- ・農業科学館との連携事業 (農業科学館ナビゲーター取得と活動)
- 農業科学科・食品科学科・園芸科学科・生活科学科 1年175名

○平成30年度の具体的な研究事項・活動内容

【アグリビジネス学習】

期 日 平成30年7月22日 (日)

事業名 アグリマーケティングハウス活用活動

内 容 これまで実施してきた「大農うめもん市」は、本校の農産物の販売を通じて、本校生徒の学習活動の成果や学校の様子などを発信する役割を担ってきた。今年度、アグリマーケティングハウスの完成に伴って、新たな施設を活用し、農産物等の販売活動等を通じて望ましい勤労観や職業観を醸成し、地域産業の活性化に寄与することのできる人材の育成を目指した。

期 日 平成30年12月12日 (水)・13日 (木)

事業名 学校訪問 (徳島商業高校、城西高校、吉野川高校)

(アグリマーケティングハウスの活用について)

内 容 今年度アグリマーケティングハウスのオープニングに向けて、外部連携や商品開発など新たな取組を行ってきた。多くのお客様に来校していただくことができ、生徒及び教職員の協力があったり各部門の取組の成果が発揮された。しかし、販売所以外の目的での活用及び施設内にある設備等を使いこなせていたかという点では多くの課題が残った。より充実した活動にするため、徳島県教育委員会の策定した「徳島県農工商教育活性化方針」のもと、農工商高校の連携による6次産業化に対応した教育活動を実践している学校を訪問した。実践事例から3校とも校内運営組織が構築されており、校内での科間連携や外部との連携が組織的になされている点や評価を外部に委託している点などが参考になった。また、失敗した事例から生徒に原因と課題を学ばせようとする姿勢が感じられ、この取組を本校のアグリマーケティングハウスの運営にも取り入れていきたいと考えている。

参加者 教員1名

期 日 平成30年12月24日 (月)～27日 (木)

事業名 学校及び施設訪問 (食品科学科教員の教育課程・先端技術研修)

(愛知県立安城農林高校、愛知県立三谷水産高校、

愛知県立半田農業高校、ミツカン、八丁味噌)

内 容 SPH事業と並行して学科改編が行われ、農業科学科3年食品コースと食品科学科1・2年の生徒は、外部連携で商品開発や若手農家の紹介などに取り組んできた。また、本事業のアグリマーケティングハウスのオープンにおいても大きな役割を担ってきた。しかし、地域資源を活用した商品開発と販売、施設設備の活用等に多くの課題が見られた。そこで、本校と同じSPH事業指定を受け、「魚醤」や「ごはんじゅれ」を開発・販売している三谷水産高校、地域資源を活用した「地域との協働による学校ブランド品の開発と販売」「模擬会社の設立と地域教育力の活用による活動」に取り組んでいる半田農業高校、パンマイスター、和菓子マイスター、ちくわ職人などの外部講師による特別授業と「イチジクを使ったチーズ作り」など特色ある授業を行っている安城農林高校を視察した。新学科である食品科学科の課題である、地域で活躍する人材育成につなげるための学習内容や実践内容について参考となった。今後は地域課題を食品製造や販売活動を通じた教育活動から発見し、主体的・協働的に課題に取り組む資質・能力が身に付くように教育活動を展開していきたい。

参加者 教員1名

【イノベーション学習】

期 日 平成30年8月17日 (金)

事業名 スペースアグリプロジェクト (会津若松Akisai野菜工場の訪問)

内 容 昨年度実施した事業の中で、ICTを使った農業生産管理についての講演会及び植物工場の見学に関しては、学校内で反響が大きかったことから、野菜部等の生徒が参加し、ICTを活用した先端農業の生産管理システムと閉鎖環境における農業を実践している企業への訪問を実施した。安心・安全+機能性のニーズに合わせた野菜の生産販売を学ぶことができ、今後の農業生産や農業管理について展望することができた。

参加者 農業科学科生徒4名、生物工学部生徒2名、野菜部生徒6名、教員1名

期 日 平成30年9月15日(土)～17日(月)

事業名 信州大学理学部物質循環学科環境毒性学研究室への訪問

内 容 電気分解による湖水の水質改善を行っている信州大学を訪問し、電気分解による田沢湖の中性化及び電気分解された湖水の生物学的影響調査、田沢湖水に生存する微生物の調査などの共同実験を行った。

参加者 生物工学部生徒3名 教員1名

期 日 平成30年10月6日(土)～8日(月)

事業名 第83回日本陸水学会岡山大会への参加

(岡山大学津島キャンパス 岡山市北区津島中3-1-1)

内 容 大学や研究機関、信州大学、立命館大学、仙北市及びクニマス未来館等の協力を得て、田沢湖の水質改善に関する研究活動を実施してきた。これまでの研究成果を学会等で発表したところ、研究機関の専門家等から、採水場所の選定や微生物の写真撮影方法についてのアドバイスをいただいた。学会に参加して得た知見やアドバイスを今後の研究活動に活かしていきたい。

参加者 生物工学部生徒1名、教員1名

期 日 平成30年10月13日(土)～15日(月)

事業名 世界湖沼会議学生会議への参加

(つくば国際会議場 つくば市竹園2-20-3)

内 容 田沢湖の水質改善に関する取組について、小学生から高校生対象の学生会議のセッションに参加した。参加者同士のディスカッションから環境保全や水質改善についての知識を深めることができた。参加した団体とはこれからも一緒に活動していく関係を構築することができ、今後の研究活動をより発展させたい。

参加者 生物工学部生徒4名、教員1名

#### 【高スキルアップ学習】

期 日 平成30年9月28日(金)

事業名 ファシリテーション研修

(まちづくりファシリテーター 平元美沙緒 氏)

内 容 昨年度から引き続き、相互交流参加生徒を対象としたファシリテーション研修を実施した。将来農業関係の進路を考えている生徒を対象とし、地域農業のリーダーとなることを期待して研修を実施している。参加した生徒は、本研修を通して、人間関係の構築や意見のとりまとめなどを円滑に進めることができるスキルが身に付いた。

参加者 生徒13名

期 日 平成30年10月11日(木)・12日(金)

事業名 教員研修(先端技術)「第8回農業ワールド」見学

内 容 次世代農業について商品を提供している企業、6次産業化に関する商品を提供している企業及び農業資材を提供している企業などから、農業に関する最新情報を収集した。また、各分野において先進的な取組を行っている講師による講演を聴講することにより、専門的知識を深めた。

参加者 教員1名

期 日 平成30年8月30日(木)、10月30日(火)、11月20日(火)

事業名 大仙市農業振興情報センター研修生との相互交流(3回)

内 容 就農啓発の一環として、大仙市研修制度のガイダンス及び研修生の試験圃場を見学することで視野を広げるとともに、研修生との交流を通じて、就農や農業関連産業への就職に向けて、具体的な道筋を理解した。また、大仙市研修制度の研修生との交流を通じて将来設計をまとめ発表することで、それらの計画の実現を図る態度及び能力を養った。

参加者 生徒13名

期 日 平成30年12月19日(水)～22日(土)

事業名 教員研修

(熊本県立南稜高校(SPH指定校))

(熊本県立鹿本農業高校・熊本県立八代農業高校(教育課程研究指定校))

内 容 平成28年度SPH指定校の3年次成果発表会及び運営の様子などを視察し、指定校同士で今後の事業の取組状況等について情報交換を行った。また、2016年度～2017年度に教育課程研究指定校の八代農業高等学校、2018年度～2019年度に研究指定を受けている鹿本農業高等学校を訪問し、「農業と環境」における指導と評価の在り方について、情報収集を行った。「指導」や「育てたい生徒像」の見える化について、新学習指導要領移行に向けた教育課程編成や指導体制の点が参考になり、今後の教育活動に活かしていきたい。

参加者 教員1名

期日 平成31年1月9日(水)～11日(金)

事業名 先進校視察

(群馬県立勢多農林高等学校、東京都立瑞穂農芸高等学校)

内容 動物科学科を設置している勢多農林高等学校及び畜産科学科や養豚部を設置している瑞穂農芸高等学校を訪問し、都市部における家畜の防臭対策を含めた農場運営、動物科学科の教育課程や学習内容について視察した。畜産を専攻する生徒の教育課程や家畜の排泄処理方法などが参考になった。

参加者 農業科学科生徒2名、教員1名

期日 平成30年4月5日(木)～平成31年3月15日(金)

事業名 「食の6次産業化プロデューサー」の資格取得

内容 「食の6次産業化プロデューサー」レベル1の資格について、関係科目を履修している食品科学科2年35名が個別申請し、資格を取得した。

参加者 食品科学科2年35名

#### 【組織的マネジメント学習】

期日 平成30年4月5日(木)～3月15日(金)

事業名 学校設定科目「農と食」の実施

農業科学科3年2単位 食品科学科2年3単位

内容 平成29年度教育課程より学校設定科目「農と食」を開設し、秋田県農業をはじめ、地域農業の自然・農村生活について、探究的な学習活動を通して、地域や農山村の特色や文化等を理解させるとともに、地域資源の保全と活用について考えさせることによって、地域の発展に寄与できる人材の育成ができるよう実施している。

参加者 農業科学科3年67名、食品科学科2年35名

期日 平成30年7月23日(月)～8月1日(水)10日間

事業名 長期インターンシップ研修(メロン栽培 仙北郡美郷町 農事組合法人「一徹農産」)

内容 メロンの収穫作業、調整作業、整枝作業、糖度測定を体験することで、メロン栽培の基礎技術を身に付けることができた。

参加者 農業科学科3年1名

期日 平成30年7月25日(水)～平成31年1月20日(日)10日間

事業名 長期インターンシップ研修(イチゴ栽培 仙北郡美郷町 企業組合「美郷ストロベリー」)

内容 イチゴの収穫作業、苗の定植作業を体験することで、イチゴの増殖方法や苗管理技術を身に付けることができた。

参加者 農業科学科2年1名

期日 平成30年7月30日(月)～8月10日(金)10日間

事業名 長期インターンシップ研修(黒毛和牛 秋田市下北手 株式会社 寿牧場)

内容 黒毛和牛の飼養管理、牧草の集草・運搬、子牛の出荷作業などを体験することで、夏場の飼養管理技術を身に付けることができた。

参加者 食品科学科2年1名

期日 平成30年10月8日(月)～14日(日)の7日間

事業名 長期インターンシップ研修(三重県津市安濃町浄土寺1838 安濃津農園)

内容 ホウレンソウの栽培管理、収穫調整などの作業を体験することで、地域に合った栽培方法を身に付けたり、季節毎に作目を変更する経営感覚に触れたりすることができた。

参加者 農業科学科2年1名

期日 平成30年4月16日(月)～4月20日(金)

事業名 農業科学館ナビゲーター養成研修(秋田県立農業科学館)

内容 農業科学館ナビゲーター検定試験合格者を対象として、農業科学館まつりや夏季休業中のインターンシップ等で、来館者に対して施設及び展示内容について説明するなどの活動を行った。この取組を通して、コミュニケーション能力を身に付けることができた。

参加者 農業科学科・食品科学科・園芸科学科・生活科学科2年174名

期日 平成30年11月5日(月)～11月9日(金)

事業名 農業科学館ナビゲーター検定(秋田県立農業科学館)

内容 農業科学館の施設設備及び展示内容についての知識を定着させるために検定試験を1年生全員が受検し、157名が合格した。

参加者 農業科学科・食品科学科・園芸科学科・生活科学科1年175名

#### 【その他】

期日 平成30年10月19日(金)～22日(月)

事業名 第28回全国産業教育フェア山口大会

スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業発表会

山口県山口市 維新百年記念公園スポーツ文化センター  
内 容 全国産業教育フェアでのスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業 3年目の  
指定校が成果報告を行った。平成28年度指定校10校、平成26年度指定校2校  
参加者 園芸科学科2年1名・生活科学科3年1名、教員1名  
期 日 平成30年12月18日（火）  
事業名 スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業 成果報告会  
秋田県立大曲農業高等学校 第1体育館  
内 容 これまでのスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業の成果について成果報  
告を行った。県外の若手起業家で、6次産業化を手掛けるプロデューサーとして活躍し  
ている株式会社MISO SOUP代表の北川智博氏を講師に迎え、「新しい地域の魅力を生み出  
す！～農業高校生がこれからの社会で求められること～」の演題で講演をいただいた。  
また、SGH指定校によるポスター発表を合同で開催し、「秋田の農と食」の特長とその課  
題の解決策を提言しているポスター発表を見学することができ、学科にとらわれない「農  
や食」に関わるテーマについて情報を共有することができた。  
参加者 全校生徒491名、外部70名

## 5. 研究の成果と課題

### ○実施による効果とその評価

#### 【アグリビジネス学習】

外国人留学生等との交流について、留学生との交流はできなかったが、仙北市を訪問した韓  
国や台湾の高校生と交流することができた。

アグリマーケティングハウスの活用活動は、卒業生や農家との交流活動を通して将来の自分  
の姿を想像するよい機会となった。また、開発した商品を実際に販売することでマーケティング  
の難しさや販売することの喜びを体感するなど、望ましい勤労観と職業観を身に付けること  
ができた。アグリマーケティング活用活動の評価としてレベル1～レベル4を設定し、活動2  
年間でレベル1「本校で販売する農産物や加工品を理解できる」及びレベル2「アグリマーケ  
ティングハウスでの販売活動により、地域住民と交流することができる」については概ね達成  
することができた。今年度、レベル3「アグリマーケティングハウスでの販売活動以外の利用  
方法を考えることができる」及びレベル4「アグリマーケティングハウスを地域のコミュニテ  
ィとなるような活動内容を提案、計画に基づき実行することができる」の達成を目標に取り組  
んだが、レベル3で「70%以上できた」と回答した生徒が10名（30%）レベル4では3名（9  
%）で実践的技術力や経営力が身に付いているとはいえない結果であった。今年度の反省や職  
員視察研修の成果を反映させ、アグリマーケティングハウスの活用方法についてさらに研究を  
進めていく必要がある。

#### 【イノベーション学習】

田沢湖プロジェクトは、研究活動としては田沢湖の水質改善段階から、環境保全分野に研究  
が移行した。田沢湖の酸性水を中性化することにより、かつての生態系を取り戻し、再びクニ  
マスが生息できる田沢湖にすることを目指した取組に高校生ならではの視点からの活動を行っ  
てきた。仙北市内2小学校では、中性化した田沢湖水でメダカの飼育試験を実施し、小学生に  
関心をもってもらっている。

秋田県農業クラブ連盟各種発表会をはじめ、世界湖沼会議学生会議及び日本陸水学会での発  
表や、閉鎖空間での農業の可能性及び機能性野菜についての知識を深めるため、植物工場の見  
学なども行った。田沢湖プロジェクトに取り組んだ12名の生徒の自己評価はレベル1「この学  
習に参加することにより、農業学習に対する意欲が向上する」及びレベル2「課題解決のため  
の方法やその取組を協働的に取り組むことができる」については、「50%以上できた」と全員が  
回答したが、レベル3「プロジェクト学習の課題設定について、地域が抱える課題に積極的に  
取り組んでいる」では「70%」以上が7名、「50%」以下5名と二極化した。生物工学部中心の  
取組でも、部員の中で意識に差があることが分かった。なぜこのような差が生じたのか考察を  
進め、生徒全体の意識向上に努めたい。今回の研究活動をきっかけに、地域が抱える課題の解  
決に向けて、全校生徒が積極的に取り組めるよう、来年度以降も手立てを検討していきたい。

プロフェッショナルによる指導は、生徒の進学意識向上に大いに効果があった。この2月に、  
機能性野菜や伝統野菜等に関する講義を予定している。

#### 【高スキルアップ学習】

農業後継者を志す大仙市農業情報振興センター農業研修生との相互交流では、研修生と意見  
交換をしながら将来設計についてまとめ、マイライフプランとして発表した。プラン発表後、  
研修生からのアドバイスにより、具体的で実効性のあるプランに仕上げることができた。参加  
した生徒は「農業に関わって生きていくという目標をもった先輩方や研修生の皆さんから指導  
を受け、改めて自分の進路について考えることができた」との感想を述べている。異なる年代  
の方々の意見交換を通して、視野を広げることができた。

また、校外活動や交流活動で活用できる態度と能力を身に付けるために、ファシリテーショ  
ン研修を2年継続して行った。今年度は、生徒が中心になってファシリテーターの役割を任せ  
られる場面が多数あり、実践力も身に付いてきた。

大仙市農業研修生との相互交流に参加した13名の生徒の自己評価ではレベル1「この学習に  
参加することにより、農業学習に対する意欲が向上している」、レベル2「農業者との交流学習  
により地域社会が抱える課題について理解できる」及びレベル3「地域の農業者との交流に関  
わり、農業者との意見交換などができ、自らの考えを発表することができる」では、全員が「7  
0%以上とできた」と回答した。レベル4「農業者との交流により、地域社会の構成者としての

自覚が高まり、地域農業の課題や有利性を理解できる」では、11名が「70%できた」と回答している。この事業に参加した生徒には意識の向上が見られる。来年度はさらに多くの生徒（全校生徒の5%程度）の参加を促していきたい。

また、教員研修では農業の延長上に6次産業化があるわけではなく、各産業が融合することで6次産業化が図られていることを研修し、農産物のマーケティングの手法や学習内容の見直しについて検討を進める必要がある。また、教育課程研究指定校視察からは、次期学習指導要領の趣旨を先取りした取組を紹介していただき、指導と評価の在り方、科目担当の学科横断的共通認識の必要性、ポートフォリオ評価への基礎的手法などを学ぶことができ、次年度新入生から取り入れる方向である。

#### 【組織的マネジメント学習】

農業経営を目指す人材の育成のため、先進農家や農業法人等での長期インターンシップを実施した。三重県では冬期間のハウレンソウ栽培の就業体験研修を、県内では加工用トマトの収穫や黒毛和牛の飼養管理などの就業体験を行った。参加した生徒は、「作業は大変だったが、農業の楽しさや魅力について再認識することができ、進路選択につながる体験活動になった」と感想を述べている。この体験を通して、農業経営者としての資質を高めるとともに、農業技術の改良や農業経営上の問題点についての理解を深め、地域農業の発展に貢献できる人材の育成に努めたい。

学校設定科目「農と食」では地域農業及び自然や農村生活についての探究的な学習活動を行いながら、伝統野菜「横沢曲がりネギ」の栽培や自家採取作業などに取り組んだ。これらの学習を通して、伝統野菜や伝統料理に関心をもつ生徒が増え、地域農業をより深く理解しようとする姿勢が見られるようになった。

秋田県立農業科学館でのナビゲーター養成研修では、来館者に対して施設設備及び展示内容について説明するなどの活動を行い、農業についての理解を深めながら、コミュニケーション能力を養うとともに、積極性も身に付けることができた。来館者から感謝の言葉をいただくこともあり、地域に貢献しているという意識を高めることもできた。1年生175名中157名がナビゲーターに合格するとともに、養成研修では7名がナビゲーターとして来館者への館内案内活動に参加し、活動自体が生徒に浸透しつつある。

#### ○実施上の問題点と今後の課題

##### 【アグリビジネス学習】

「アグリマーケティングハウスの活用活動」では、販売実習が10日間、商品開発が2件と目標を達成することはできなかった。原因としては、オープンが遅れたことがあげられる。来年度は4月から活用することができるので、稼働日数及び商品開発件数ともに増やしたい。「農と食」の学校設定科目においては、伝統野菜についての理解を深められるようにするために、内容を見直したい。外国人との交流は近隣自治体と連携した取組であることから、日程を早期に決定できずにいる。今年度も台湾の高校生が来校するが、実施時期は2月となっている。次年度以降、仙北市と連携をする予定であるため、連絡調整を早めに行い、実施時期を早期に決定し、充実した交流活動としていきたい。

##### 【イノベーション学習】

研修で訪問した施設で先端技術に触れることはできたが、実際の学校農場での先端技術導入となると、予算等の問題から、現実的でない。しかし、農業機械の自動運転、ドローンによる圃場解析等、人口減少が著しい過疎地域では、都市部以上にAI（人工知能）や先端技術は身近な存在となり得る。今後、農業とその他の産業の接点について、本校農場で気象データを活用する「Paddy Watch」及び「Sensu」のさらなる活用と農業情報処理の内容と結び付けた活用について検討していきたい。

田沢湖プロジェクトでは、湖水の中性化からクニマスが生息できる環境保全に研究の視点が移ってきている。高校生の活動が地域を巻き込んだ活動となるよう継続していきたい。

##### 【高スキルアップ学習】

大仙市農業研修生との相互交流は、その成果が大きいことから今後も継続する方向である。他校の事例も参考（例：〇〇農業塾）に予算措置等を検討し、将来の農業経営者や地域活性化に携わる人材の育成に努めていきたい。

ファシリテーションスキルについては、生徒会活動、校外活動及び交流活動（農業クラブ夏期研修会（県連、東北連））において、発揮することができた。今後も継続してこの事業を実施するためには、予算の獲得が課題となる。

#### 【組織的マネジメント学習】

先進農家や農業法人等での長期インターンシップは、この事業で成果があった生産現場だけでなく、加工流通販売を視野に入れた研修内容としたい。

学校設定科目「農と食」では、他の科目で学ぶことができない伝統野菜などを精選し、実践していくことが重要である。